

## ペルーでJICA初の民間企業向け融資 中小事業者を支援



アバコが支援する小口金融機関から資金を得て、伝統ある布製品を販売する零細事業者。

2019年12月18日、JICAはペルーの日系人が創立した信用組合ABACO（アバコ）との間で、1000万ドル（約11億円）の融資契約を交わした。

アバコは、「頼母子講」という日本古来の相互扶助の考えをもとに1981年に創立された。当初は日系人を中心に運営していたが、組合員数は増え続け現在はおよそ2万人。その約9割が日系人以外であるという事実からも、アバコはペルー社会に広く受け入れられていることがわかる。

アバコは、米州開発銀行のイノベーション・ラボであるIDB Labの支援を得ながら、地方にネットワークや知見を持つ金融機関と連携し、金融アクセスが限られた中小零細事業者や農家を支援するプログラムを10年以上展開してきた。JICAは同プログラムに向けて、ペルー初の海外投融資、またJICA初の金融商品ともいえる劣後融資<sup>\*2</sup>として支援を行う。日本人ペルー移住120周年となる19年、日系社会を金融面から支えてきたアバコとともにペルーの開発課題に取り組むという、日系社会とJICAの新たな関係を築くプログラムが始まった。

\*1 新たなサービスやプロダクト、ビジネスモデル等の可能性を探り、実験する場。  
\*2 融資した資金の返済順位が通常の融資よりも後になる融資。

### ニュース深掘り！ 日本古来の相互扶助—「信用組合」とともに

アバコは現地日系イベントのスポンサーや、日本・ペルー商工会議所の理事を務めるなど、日系社会の中心的役割を担っています。そんなアバコとともにペルーの中小零細事業者の支援に取り組む本事業が、JICAのペルーにおける民間セクター支援、そして日系社会との新たな連携のプラットフォームになることを期待しています。

ペルーの企業数の約99パーセントを占める中小零細事業者のうち、金融機関から融資を受けている事業者はわずか約6パーセント。ペルーの経済社会を支える事業者が融資を受けることにより、ビジネスを広げられれば、ペルーはさらに発展すると期待されることから、今回の融資を決めました。

近年、順調に経済発展を続けるペルーには民間投資が流入し、政府も民間投資による国の発展を目指しています。JICAとしても民間を後押しできる協力ができればと考えていたところ、アバコから劣後融資の相談が寄せられました。このかたちを取ることで、他の融資者がより安心して支援することが可能になります。また、アバコは信用組合ですので、株式を持つ会社と異なり、株式発行によって資金を集めることができず、ペルーでの劣後融資は一定の条件で資本として見なされるので、JICAの融資を受けることで、より多くの資金を集め、事業を拡大できます。

民間連携事業部  
海外投融資課  
**岩橋立朗**さん  
いわはしたつろう

2013年入構。ペルー事務所赴任後、現在は民間連携事業部でアフリカ・中南米向けの海外投融資を担当。「アバコとの初面談から2年9か月、JICAとアバコの仲間に支えられ、契約調印の瞬間に立ち会うことができました」。



### JICA HEADLINE NEWS

2月10日 | ▶ ベトナム 新型コロナウイルス対策に緊急支援

国立衛生疫学研究所へウイルスの同定に用いる検査試薬を提供。迅速な患者の確定診断に貢献。

2月7日 | ▶ ASEAN合同でサイバーセキュリティ対策の研修を実施

日ASEAN技術協力協定に基づく第1号案件。サイバーセキュリティ対策でASEAN連携を強化。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!  
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>